

2024年度 活動実績（職務執行状況）

予定		名称	主な内容	出席者、職務執行状況
4月	23	企画委員会 オンライン	資産運用報告・計画、第11期研究会の状況 ATFコンプログラム、事業の選択と集中 など	大島委員長、遠藤、新庄、森田、山本
5月	15	監事会 京橋 オフィス	2023年度 業務執行/事業活動の監査 2023年度 計算書類の監査	谷舘監事、服部監事 山本専務理事、事務局
	13	研究助成 募集開始	締切6月17日、審査7/4～8/2	審査員:選考委員4名、研究会代表 5名
	28	代表懇談会 京橋 オフィス	財団・研究会趣意の紹介 代表相互紹介、運営・依頼	遠藤理事長 研究会 各代表
	31	第29回 理事会 市ヶ谷	2023年度 事業報告・計算書類報告 評議員会に提案する議案の決議 など	遠藤理事長、新庄副理事長、森田副理事長 山本専務理事 等 計10名、服部監事
6月	25	第13回 評議員会 市ヶ谷	2023年度 事業報告・計算書類報告 評議員・理事・監事の選任 など	臼井会長、新村・前川副会長等 評議員9名 山本専務理事 等 計12名、服部監事
		理事会(決議の省略)	代表理事・業務執行理事選定(書面)	理事10人及び監事2人全員から書面で入手
	27	内閣府提出	2023年度事業報告・計算書類、付帯資料	事務局
7月	11	評議員会(決議の省略)	評議員会会長の選定(書面)	評議員8人全員から書面で入手
8月	8	評議員会(決議の省略)	研究助成を2025年度から休止する(書面)	評議員8人全員から書面で入手
	9 10	企画委員会 沼津	ATFコン実施計画の確認企画委員 公益法人制度改革説明、重要案件検討	大島委員長、遠藤、森田、松本、小林
	23	研究助成 選考委員会	2024年度 研究助成採択者の選考 2025年度 奨励賞の選考準備	齋藤委員長、森田副委員長、渡邊、湯浅
9月	10	理事会(決議の省略)	2024年度 研究助成の採択(書面)	理事10人及び監事2人全員から書面で入手
11月	17 19	第2回ATFコンファレンス 沼津	招待講演、奨励賞授与式、5研究会 研究助成成果発表、役員等ディスカッション	招待講演＝大野氏、沙川氏 役員等合計80人
1月	21 22	企画委員会 御茶ノ水	2025年度事業計画、収支予算、資産・投資 規程変更 等	松本委員長、大島、遠藤、森田、齋藤、小林
2月	17	奨励賞選考 オンライン	2024年度採択者選考（理事会推薦者）	齋藤委員長 等 委員計5人
3月	18	第30回 理事会 市ヶ谷	2025年度 事業計画及び収支予算 特定資産繰入、奨励賞、謝金規程等	遠藤理事長、森田副理事長、小林専務理事 等 計8名（総数10名）、谷舘・服部監事
	21	内閣府提出	2025年度事業計画、収支予算、資産・投資	事務局

研究会活動状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
界面ナノ科学						20 御茶ノ水		17-19 沼津				9-10 札幌
高機能センサ					20 八重洲							
ナノメカニクス						3 市ヶ谷						
バイオ単分子												17-18 秋田
量子物質						4 御茶ノ水						13-14 琵琶湖

刊 行 物	7月	活動報告書 2023年度	事業活動、決算報告、等	印刷 120部
	7月	財団パンフレット		印刷 120部
	11月	第2回ATFコンファレンス	開催プログラム	印刷 120部

第2回 ATF コンファレンス 開催記

第2回 ATF コンファレンスが2024年11月12日(日)～14日(火)、沼津・プラサヴェルデにて開催されました。昨年の第1回に続き、設立趣意を振り返り、より幅広い交流の機会を設ける為に、研究会員、評議員、理事と財団関係者全員を対象とし、さらに外部の講演者、奨励賞授賞者、研究助成採択者、財団OB-OGも招待いたしました。参加者80名、財団関係者参加率75%以上と大勢が集まり、招待講演、研究講演、参加自由な研究会、そして深夜まで続いたナイトセッションと、活発で有意義な2泊3日の交流となりました。

冒頭に遠藤守信理事長から挨拶がありました。

当財団は設立から31年が経過しましたが、日本の科学技術の発展を支援するため、真摯に運営を進めて参りました。しかし、この時代は「失われた30年」とも言われ、世界の中で日本の産業経済や科学技術の輝きが失われ、日本のプレゼンスが低下しています。現在、国を挙げてトップダウンの施策が講じられていますが、当財団では「ボトムアップ」を通じて、存在感のある活動を進めたいと考えています。



昨年より開始したATFコンファレンスでは、この「ボトムアップ」による貢献を目指し、様々な分野で活躍する研究者や技術者が一堂に会し、分野を越えて交流や議論を深める「プラットフォーム」となることを目指しています。

このプラットフォームにおいて、マーク・グラノベッター博士が提唱した『Strength of Weak Ties (弱い紐帯の強み)』の事例のように、「弱い紐帯」(ちょっとした関係)から新鮮な情報や新たな視座を得ることで、皆さんの仕事の発展に繋がり、さらに財団が創造的なコミュニティとなることを願っています。

参加された皆さんには、本音の議論、更には懇親会などでの歓談を通して、有意義な3日間となる事を祈念いたします。また、日頃より当財団の活動に対して多大なるご支援を賜っているセイコーインスツル株式会社に対して、厚く御礼申し上げます。

【招待講演】

- 大野英男氏 東北大学 総長特別顧問
「未来を拓く研究大学」
- 東北大学を例として -
- 沙川貴大氏 東京大学 教授
「情報熱力学とその展開」



<大野英男氏>



<沙川貴大氏>

【鼎談】 「これからの研究のあり方 - 楽しさ・国際化等、ATFへの期待 -」

- 一杉太郎氏 財団フェロー、元界面ナノ科学研究会代表
齊藤英治氏 財団フェロー、前スピントロニクス研究会代表
柴田直哉氏 財団フェロー、前界面ナノ科学研究会代表
渡邊力也氏 バイオ単分子研究会代表
杉原加織氏 高機能センサ研究会代表



【奨励賞 授与式と受賞講演】

安井隆雄氏 東京工業大学 生命理工学院

「ナノワイヤを基盤とした次世代尿解析技術の創出」

【研究助成 成果発表】

石部貴史氏 大阪大学 助教

「有機－無機ハイブリッド型ナノ構造含有熱スイッチの性能向上」

関貴一氏 弘前大学 助教

「高感度イオン検出を可能とする二次元生体 ナノデバイスの創成」

堀井和広氏 岐阜大学 助教

「生物物理学的手法を駆使した超音波による蝸牛内ナノ振動の実証」

許斌氏 東京大学 特任助教

「二次元ヘトロ構造を用いたコヒーレント フォノンエンジニアリング」

橋川祥史氏 京都大学 助教

「共役ナノカーボン複合体の創製と物性解明」



<奨励賞 授与式>



<研究助成 成果発表>



<懇親会での歓談>

【5 研究会開催】

(代表)

高機能センサ研究会	(杉原加織 東京大学)
バイオ単分子研究会	(渡邊力也 理化学研究所)
ナノメカニクス研究会	(土方亘 東京科学大学)
界面ナノ科学研究会	(千葉大地 東北大学)
量子物質研究会	(越野幹人 大阪大学)

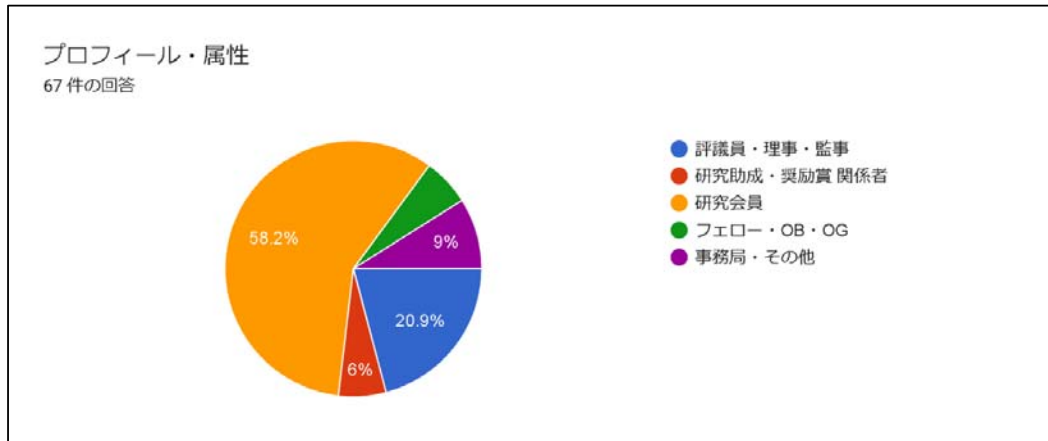


第2回ATFコンファレンス 参加アンケート結果

■回答者

参加者数 80名

回答者数 67名



■質問項目

1. プログラムについて

- ①全体評価(※必須回答)
- ②招待講演・鼎談
- ③奨励賞・受賞講演
- ④研究成果 成果発表
- ⑤各研究会
- ⑥評議員・理事 合同ディスカッション
- ⑦自由記述: プログラムについてのご意見

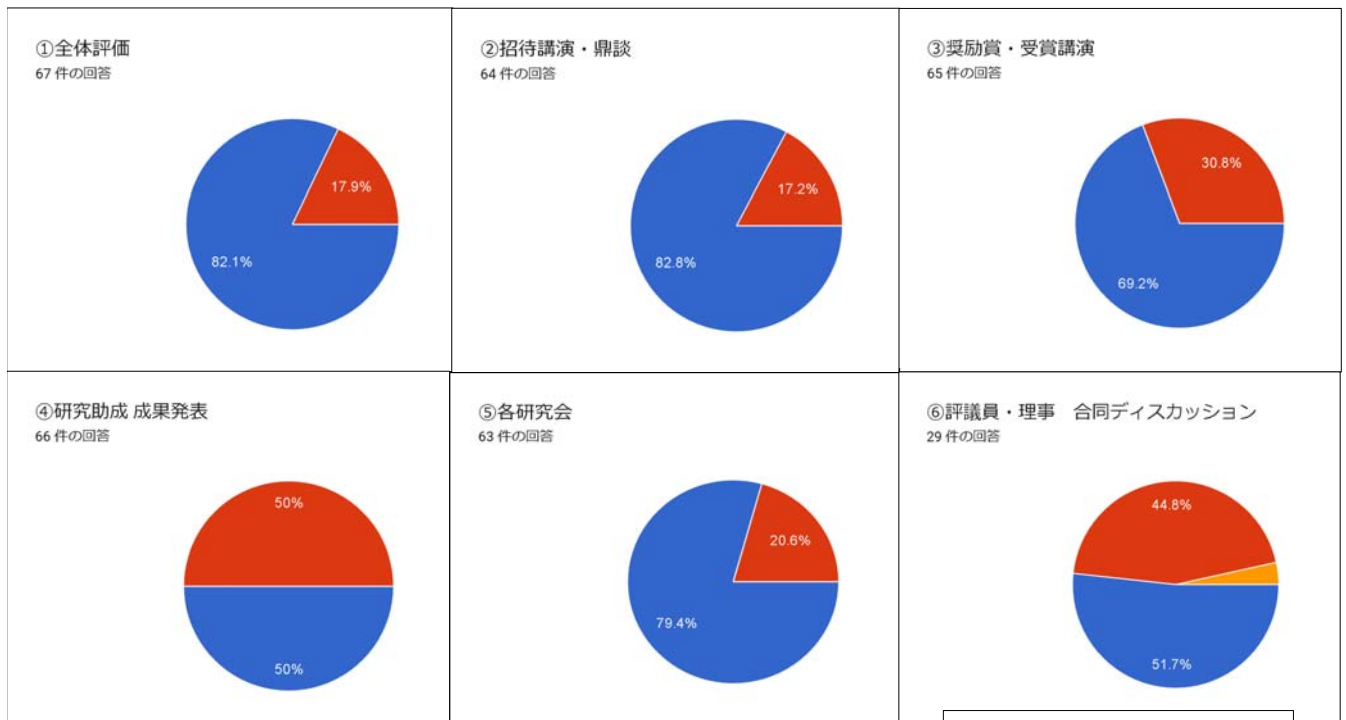
2. 運営について

- ①開催会場
- ②宿泊ホテル
- ③食事(昼食・夕食)
- ④ナイトセッション
- ⑤エクスカージョン
- ⑥自由記述: 運営についてのご意見

3. ATF財団活動について

- ①自由記述: 興味ある分野などのキーワード
- ②自由記述: ATF財団の活動について期待する点

1. プログラムについて



● ◎ : たいへん良かった
● ○ : 良かった
● △ : あまり良くなかった
● × : 良くなかった

■「プログラム」に関する自由記述コメント(生成AIでの要約)

●多様な分野の研究者との交流:

各分野の最新成果や大学運営の話を聞いたことが有意義。
異分野の研究者との共同研究の可能性が生まれた。

●プログラムの構成:

合同ディスカッションや全体セッションの充実が評価された。
夕食からナイトセッションまでの間に時間が空きすぎていたため、参加者が帰ってしまうことがあった。

●講演と挨拶:

遠藤守信先生や大野英男先生の講演が特に印象的だった。
一部の講演者の紹介が長すぎるとの指摘があった。

●日程と形式:

合宿形式や土日の開催が共働き世代には厳しいとの意見。
家族で参加できる制度の導入が望まれる。

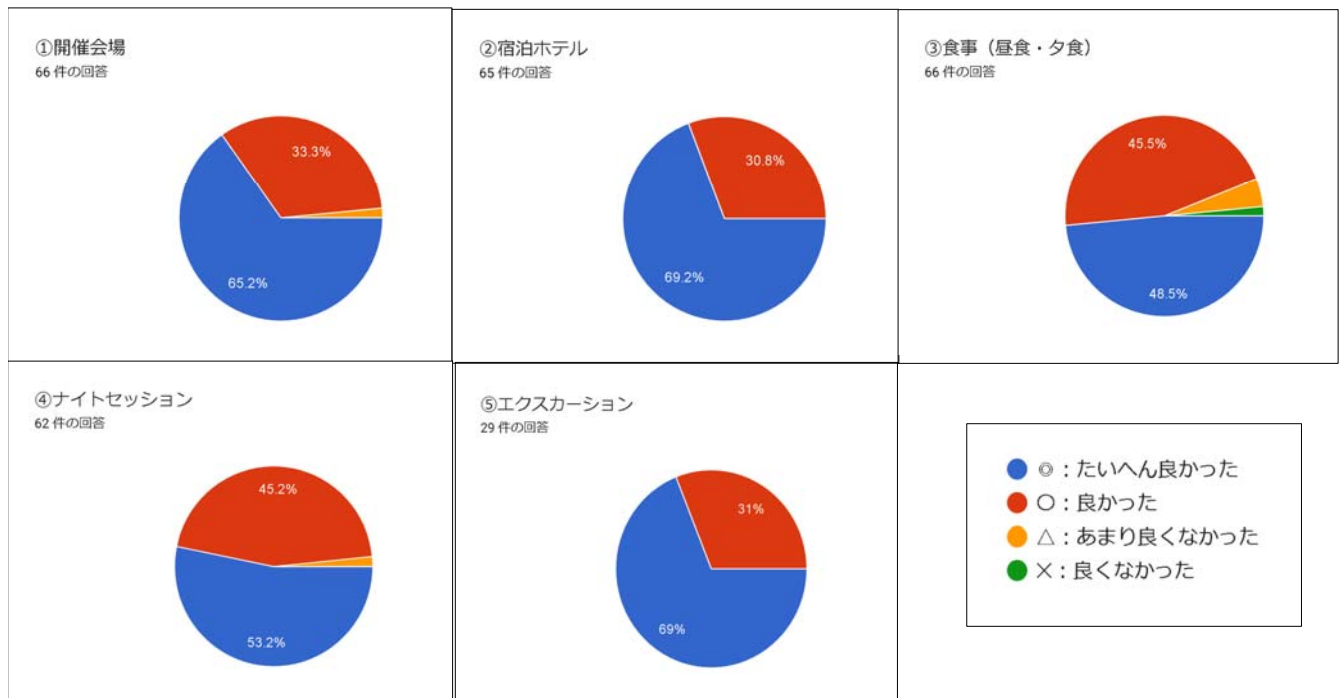
●その他の意見:

研究会が重なり、興味のある他の研究会に参加できなかったことが残念。
全体セッションでのビジネス化事例の紹介が期待されている。

■まとめ

全体的に、プログラムは非常に良かったとの評価が多く、特に異分野交流や講演内容が高く評価されました。
しかし、日程や形式に関する改善点や、プログラムの時間配分に関する意見も見受けられました。
今後のコンファレンスでは、これらのフィードバックを活かして、さらに充実したプログラムを提供することが期待されます。

2. 運営について



■「運営」に関する自由記述コメント(生成AIでの要約)

●食事と会場:

沼津らしい食事の機会が最終日以外にもあった方が良い。
会場やホテル、食事が素晴らしく、ナイトセッションも楽しかった。
ナイトセッションの会場がやや狭かったとの意見もあり、もう少し広い会場が望ましい。

●プログラムの情報提供:

講演者とテーマ・時間表の配布が評価され、全ての研究会でこの情報があると良いとの意見。
(※一部研究会で配布)
研究会への参加機会をもっと増やして欲しいとの要望。

●運営スタッフの努力:

スタッフの尽力に感謝する声が多く、運営が素晴らしかったとの評価。
事務局の対応が良く、研究会の一員として扱われたことが嬉しかった。

●家族同伴と学生参加:

家族同伴が理想的であり、学生参加も推奨される。 気楽に議論できる雰囲気を維持することが重要。

●その他の意見:

ナイトセッションの企画が良かったが、自由参加の形式も検討して欲しい。
相部屋ではなく個室がありがたかった。
開催場所のアクセスや温泉の有無についての意見もあり、次回の開催地選定に参考にしたい。

■まとめ

運営に関しては、全体的に高い満足度が示されており、特にスタッフの尽力や会場の質が評価されました。
一方で、家族同伴や学生参加の推奨、食事の機会の増加、ナイトセッションの会場の広さなど、いくつかの改善点も指摘されました。
これらのフィードバックを活かし、次回のコンファレンスではさらに充実した運営を目指すことが期待されます。

3. 財団運営について

(1)「興味ある分野などのキーワード」に関する自由記述コメント(生成AIでの要約)

●量子物質と超伝導:

量子マテリアル、エキゾチック超伝導、非相反物質、量子物性、量子物質研究会が有益だった。

●AIとロボット:

基礎科学におけるAIの将来展開、Deep LearningのAIのサイエンスへの応用、AIやロボットの研究領域の重要性。

●ナノテクノロジーとバイオ:

ナノメカニクス、ナノサイエンス、ナノテクノロジー/先端バイオ、バイオ単分子、バイオ、ナノメカ研究会の拡充。

●その他の科学技術分野:

散乱理論、光科学、ハーベスティングやフレキシブルデバイス応用、次世代MEMSデバイス、集積回路技術、半導体、物理コンピューティング、計測装置、顕微鏡。

●社会実装と異分野融合:

研究成果の社会実装、単一分野の深耕と異分野の架橋・融合、研究会を跨った議論、研究会の継続性とopenな運営。

●その他の興味分野:

時計、ものづくり技術、タンパク質構造予測と相互作用予測、進化工学、生命科学分野の知財問題、気候変動と温暖化、AI時代における生命の問い。

■まとめ

参加者の興味分野は非常に多岐にわたり、量子物質やナノテクノロジー、AIの応用などが特に注目されています。また、異分野の融合や研究成果の社会実装にも関心が高く、これらの分野でのさらなる議論と交流が期待されています。これらのキーワードを基に、今後の研究会やコンファレンスのテーマ設定に役立てることができるでしょう。

(2)「ATF財団の活動について期待する点」に関する自由記述コメント(生成AIでの要約)

●財団の特徴と継続:

学会等との違いや財団としての特徴を維持してほしい。
幅広い分野の交流会が貴重であり、今後も継続してほしい。
「世界一の財団に」という提言に感銘を受けた。

●若手研究者の参加:

若手のイベント参加が必須であり、研究者と企業人の討論の場を増やしてほしい。
各研究会で若手研究者の参加が進んでいる点が素晴らしい。

●交流とネットワーク:

研究会を合同で行う機会を増やし、研究会間の交流を促進してほしい。
他の研究会にもゲスト参加できる仕組みがあると良い。

●活動の多様化:

最先端分野の開拓には芸術との連携も大切。
研究以外での意見交換の場があると嬉しい。

●その他の意見:

コンファレンスの効果が大きいので、継続してほしい。
学生・院生のアイデア提案の奨励・助成が期待される。

■まとめ

財団活動に対する期待として、学会等との違いや財団としての特徴を維持しつつ、若手研究者の参加や研究会間の交流を促進することが求められています。また、最先端分野の開拓や意見交換の場の提供など、多様な活動の継続と発展が期待されています。これらのフィードバックを基に、今後の活動をさらに充実させることが期待されます。